

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第 68 回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
日 時	令和 6 年 11 月 26 日 (火) 午前 10 時 00 分～午前 10 時 50 分	場 所	木津川市役所 第 2 北別館
出席者 〔出席者…■ 欠席者…□〕			
委 員			
<p>【学識経験者】</p> <p>■大庭 哲治委員（副会長） ■井上 学委員</p> <p>【市民代表】</p> <p>■園田 仁志委員 □出石 順大委員</p> <p>■桑原 久和委員 ■岡野 陽平委員</p> <p>■上月 俊行委員 □木村 剛委員</p> <p>□福井 康裕委員 □辰巳 潤委員</p> <p>□中森 啓之委員</p> <p>【事業者】</p> <p>■吉田 敦亘委員</p> <p>□森口 真貴委員</p> <p>■大西 秀樹委員 ※代理：松石 康志（奈良交通株式会社 乗合事業部 次長）</p> <p>■津田 秀夫委員 ※代理：川越 啓史（株式会社ウイング 主任）</p> <p>■足立 高広委員 ■大江 正泰委員</p> <p>□加藤 隆委員 □梅田 幹夫委員</p> <p>■渡邊 英一委員</p> <p>【行政機関】</p> <p>■中野 幸太委員</p> <p>□今城 由貴委員</p> <p>■松永 弘道委員 ■安藤 浩道委員</p> <p>□村上 敬信委員</p> <p>□谷口 雄一會長 □稻垣 勝彦委員</p> <p>■久保田 明委員 ※代理：島川 淳一（木津川市 建設部次長）</p> <p>■山本 昌宏委員</p>			
その他の			
<p>【オブサーバー】</p> <p>■大塚 保洋（国土交通省近畿運輸局 交通政策部交通企画課 課長）</p>			
事務局	船岡政策監、茅早事務局長、西村事務局次長、吉田主幹、楠見主任、井村主任		
傍聴者	0 人		
議 題	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①令和 6 年度木津川市コミュニティバスの利用状況について【資料 1】</p> <p>②令和 6 年度路線バス加茂線の利用状況【資料 2】</p> <p>③令和 6 年度共創・Maas モデル実証プロジェクト（モビリティ人材育成事業）の実績報告について【資料 3】</p>		

	<p>(2)その他</p> <p>①次回協議会の日程について ②その他</p> <p>3. 閉会</p>
会議結果要旨	<p>1. 開会 事務局より開会の宣言があった。</p> <p>2. 議事 議長から運営内規に基づき、会議録の署名委員として岡野委員を指名した。</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①令和6年度木津川市コミュニティバスの利用状況について 資料1に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p>②令和6年度路線バス加茂線の利用状況 資料2に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p>③令和6年度共創・Maas モデル実証プロジェクト（モビリティ人材育成事業）の実績報告について 資料3に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p>(3)その他</p> <p>①けいはんな学研都市（京都府域）地域公共交通計画策定にむけて 事務局より配布資料に基づき報告を行った。</p> <p>②次回協議会の日程について 後日通知することとした。</p> <p>3. 閉会</p>
会議経過要旨 ◎議長 ○委員 →事務局	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①令和6年度木津川市コミュニティバスの利用状況について 【配布資料】資料1 【主な意見・質疑等】</p> <p>②4月～9月の半年分の集計ではコミュニティバス利用者は増えているが、例えば9月など個別の月で見ると、デマンド路線や山城線など利用者が減っている箇所もある。その理由について掘んでいることはあるか。 →加茂地域のデマンド路線について、運行事業者の加茂タクシーに確認したところ、高齢化や体調不良などで使われなくなる事や、バイクに乗るようになった等の理由で、利用を止める事があると聞いている。山城線については、運行事業者への聞き取りを行っていないので、詳細は分からない。</p>

◎トータルで利用者が伸びている事は良いが、月ごとの状況も掴んでおいたほうが良い。特に定時定路線については、利用が減っている場合は注視してほしい。

○コミュニティバス利用者数が増えていることは良い事だが、市としての最終目標はどこか。また、きのつバス（木ー1）の利用者増の理由は、南陽高校などの通学利用であると思うが、なぜ増加しているかの詳細の分析を1年の利用者数が確定した時点で出してほしい。それに基づいて、今後の運行を議論していきたい。

→市の最終目標としては、運行費に係る市の負担割合が50%というものである。ただ、昨今の人件費高騰等に伴う運行経費の増加により、達成は難しくなっている。また、本協議会ではコミュニティバスの運行継続条件を定めているので、それも達成すべき目標としている。

木ー1については、基本的に小型バスで運行しているが、雨天時には利用が増える傾向にあり、積み残しのリスクもあることから、場合に応じて中型バスを配車するなどしていただいている。次年度当初の協議会では、各路線の利用者数についての詳細を報告できるように、事業者ヒアリングなどを行っていく。

→加茂地域の法花寺野では、以前運行されていた和束木津線の再編により、バスが運行されていない。現在、法花寺野から加茂小学校に家族の送迎により通学している小学生が2人おり、教育委員会から何とか通学線のようなバスを運行できないか相談を受けている。コミュニティバスの運行継続条件を満たしていないデマンド路線の運行本数を減らし、法花寺野地域を運行するデマンド路線ができるか検討をしており、次回以降の協議会の協議事項にすることを考えている。

○交通空白地を無くす取組は良い事である。今回は法花寺野地域だが、今後、きのつバス（木ー2）を鹿背山から加茂地域に延伸する事も検討してほしい。

◎交通空白地を無くすことは重要なことで、進めていただきたい。

○当尾線の利用が伸びているが、市外の方へのPRなどはしているか。

→JRが駅毎に発信しているチラシや、広域的な取組などでPRし、市外からの来訪者へも分かりやすいようにしている。

②令和6年度路線バス加茂線の利用状況

【配布資料】資料2

【主な意見・質疑等】

○利用者数と収支率が正比例していないが、理由はあるのか。

○運賃支払単価の変動が考えられる。また、この収支率は昨年度の費用単価を使用しているので、そこで差がでてきていると思われる。

○グラフに、支出入の状況を入れた方がよい。

○加茂線が廃止されるかもしれないという危機感が南加茂台住民にはあった。加茂線は、南加茂台地域の大事な移動手段なので何とか廃止は止めて欲しい。

→危機感を持って利用していただくことが大事であると考えている。ただ、加茂線全体としては利用が伸びているが、加茂地域の利用は昨年度から減っているのが現状で

ある。国庫補助を活用しての路線維持となっているので、利用状況や収支状況によつては、運行の見直しをしていかなければならないと考えている。

○なぜ、加茂線だけを協議会で取り上げているのか。

→昨年度奈良交通より、梅美台～加茂間の廃止の提案があり、協議の上で、国庫補助と市の負担で運行していく事を決めているため、その利用状況を協議会で報告することとしている。

○そういう事であれば、利用人数や収支の詳細も合わせて報告するべきである。市と奈良交通の目指す目標がずれかねない。

○詳細の資料については、奈良交通からの提供をお願いするとともに、地域住民の利用が増えるような取り組みを行っていく必要がある。加茂線の廃止された場合の影響は大きいため、協議会でも知恵を出し合いながら対応していきたい。

③令和6年度共創・Maas モデル実証プロジェクト（モビリティ人材育成事業）の実績報告について

【配布資料】資料3－1、3－2、3－3

【主な意見・質疑等】

○人材育成事業を受講された方は、今後どのように関わってもらうか。

→具体的にどう進めていくかについては、京都府と検討中である。

○自動運転バスのルートは、既存路線を基本とするのか。

→今後検討していく事項になるが、道路状況から既存路線での運行となることが見込まれる。

(3)その他

①けいはんな学研都市（京都府域）地域公共交通計画策定にむけて

→意見等なし。

②イベントの案内

「学研都市線で行こう！フォトコンテスト」と「心ほどける旅デジタルスタンプラリー」の案内を行った。

→意見等なし。

③次回協議会の日程について

後日通知することとした。

3. 閉会

以上